

講義年月日：2005年3月9日(水)

講演者：笹川郁夫 氏（東京大学附属図書館事務部長）

テーマ：「大学図書館と情報流通」

講義内容

1. 概要

「大学図書館と情報流通」をテーマとして、行政改革で独立法人化した国立大学図書館の実情と今後の学術情報の整備についてお話いただいた。大学の情報戦略と大学図書館について、大学をとりまく情報環境の変化、最新の学術情報システム構築の具体的な事例、それに伴う業務改革の説明がなされた。また新たな情報流通基盤体制を目指すにあたり、図書館はどうしていけばよいのか、図書館員に求められる専門性・能力は何かについてお話いただいた。

2. 法人化と大学図書館

文科省年度予算による運営から、交付金の縮小により独立法人化に伴う個別の予算執行を迫られる。要するに資金調達という新たな課題に国立大学図書館は直面している

3. 大学をとりまく情報環境施策

- ・第3期科学技術基本計画及び電子情報化による情報流通の能率的蓄積、省力化し迅速な資料提供（SPARC/JAPAN）、国際学術情報流通基盤整備事業について。
- ・東京大学経営戦略の一環として、各学系別科研費等補助金採択件数を図書館が調査し情報提供により学内活性化に貢献する事例について

4. 東京大学附属図書館「学術情報システム」

- ・柏図書館開館により、IT活用による経営効率化から、e-DDSサーバーを導入しILL業務の自動化実現と将来的な拡大展望について。
- ・関連して利用者サービスの活用例として、新刊受入資料の紹介が携帯画面で表紙まで確認できる事例について
- ・バーコード管理から、ICタグへの変更についての審議開始について。
- ・東大図書館52拠点の資料購入から支払、受入から排架、の簡潔化及び情報のコンソーシアム連携構築について。

5. 新たな情報流通基盤体制を目指すうえで、図書館員に求められる専門性及び能力とは

- ・「柵」との戦い、利用者の声を聞くこと（図書館員だけが満足していてもダメ）
- ・オフサイドミーティングの必要性（こんな風になったら、例えばこう考えたけど）
- ・改革プランの作成
- ・求められる専門性や能力は、従来とは異なり、「与えられた処理をするのではなく、現場から（マーケット）課題を見つけ出し、読み取る能力」さらには、「制約条件を変えてみたり、裏読みしていく能力」が必要である。
- ・「教員、学生のために何が出来るかを忘れずに！」、仕事には「情熱」が必要である。

6. その他（質問に対する回答等の要約）

- ・国立大学図書館管理職の研修プログラムを作成中であるが、有効な方法等は、さらに研究を要する。
- ・図書館員の研修プログラム及びマネジメントの秘訣は、「各館員の執務状況の観察、質量のバランス配分、止めるときは止める判断」等

PS研究分科会と慶應義塾大学三田メディアセンター、デジタル・ライブラリアン講習会との合同研修会として行った。